

(1)学校経営の改革方針における今年度の重点取組についての評価結果

項目	行動計画の目標・評価方法	達成状況・評価結果	具体的取組に関する成果や課題
豊かな人間性の育成	<p>(1) キャリア教育 大学入学後及び就職後も視野に入れ、外部の人材の活用を図る。</p> <p>(2) 教育相談体制 担任・学年による日常の生徒面談に加え、大学教授（臨床心理士）による専門的教育相談を充実させる。</p> <p>(3) 部活動・特別活動 短時間で集中した形でも練習を行い、部活動を行う。 グローバルな視点での生徒の育成を図るため、留学等の制度利用を進める。</p> <p>(4) 人権教育 行動できる高校生を経て、思いやりに満ちた地域のリーダーとしての育成を視野に入れた人権教育を展開する</p>	<p>(1) 進路行事（キャリアデザイン講演会・OB講演会・学部学科説明会・卒業生と語る会等）を「総合的な学習の時間」に実施し、保護者進路説明会を学年ごとに行うとともに今年度は保護者に対しても講演会を実施した。</p> <p>(2) 月に1日、教育相談専門員（大学教授）による教育相談を行った。</p> <p>(3) 部活動等も充実した練習を行い、全国大会・中部大会・東海大会に出場した。グローバル教育推進事業を活用し、生徒にグローバルな体験をさせた。</p> <p>(4) インクルーシブ社会の実現に向け、将来社会のリーダーとなる人材づくりを意識し、特別支援学校との交流を行い、人権講演会を公開した。</p> <p>※「校長だより」を定期的に発刊し、主に豊かな人間性の育成に向け、生徒・保護者・教職員・地域に向け、情報発信を行った。</p>	<p>(1) 進路行事は、生徒にとって、大変満足度の高い結果となった。これはニーズに合致したものであったと考えられる。今後は、志望理由書等小論文指導をさらに体系化させる必要がある。</p> <p>(2) 専門家からの適切な助言が得られた。しかし教育相談を希望する生徒・保護者・教員が多く、1回にかけられる時間が短く課題となっている。</p> <p>(3) 短時間で集中した練習を行っている。課外授業・模擬試験等との両立に向けてさらなる調整が必要である。 グローバルな生徒に育成のために、生徒の視野を広げさせ、同時に行動力をつけさせる必要性もある。</p> <p>(4) 人権教育については、学校教育計画全般に位置づけ、実施を図っているが、各教科・科目においてさらに人権の視点を意識した授業を行う事も重要である。</p>
学力の向上	<p>(1) 主体的学習習慣 自分でスケジュールを管理させ、家庭での実質学習時間の増加を図る。</p> <p>(2) 教科会の充実 特に五教科間での連絡・調整を充実させ</p>	<p>(1) 「生徒スケジュール手帳」「学習のてびき」を継続させた。</p> <p>(2) 今年度より五教科代表者会議を発足させ、連絡・調整を図った。</p> <p>(3) 校長のリーダーシップのもと、ア</p>	<p>(1) 生徒の主体的学習習慣の確立に向け、生徒に一層の自己管理を図るために、アクティブラーニングと関連づけて活用させる事が必要である。</p> <p>(2) シラバス作成等で五教科代表者会議を機能</p>

	<p>る。</p> <p>(3) 授業力向上 アクティブラーニングについて教員研修を行い、実施を推進する。</p>	<p>クティブラーニング型授業を推進した。</p>	<p>させた。今後は、生徒の課題の精選等について調整機能を発揮させたい。</p> <p>(3) 無理のない形でアクティブラーニング型授業を推進し、今年度だけで実施率がかなり増加した。高大接続システム会議等の動向を踏まえ、大学入学後も意識した授業力向上で、学力を向上させたい。</p>
組織力の向上	<p>(1) 学年・分掌の連携 各学年とも、特に進路指導部・生徒指導部の連携を一層進める。</p> <p>(2) 学校防災・防災教育 「避難訓練」の実施時に、「防災ノート」を活用する。</p> <p>(3) 地域連携 「協創活動支援事業」を活用し、可能な限り多くの生徒の経験値を上げる。</p> <p>(4) 総勤務時間の削減 過重労働解消に向け、声かけを行うとともに、会議の時間短縮を図る。</p>	<p>(1) 学年会への進路指導部・生徒指導部所属職員の出席に加え、学年主任と分掌部長間での連絡を密に取り合った。</p> <p>(2) 非常食料等（白い小箱）の備蓄を進め、「防災ノート」を使い、指導を進めた。</p> <p>(3) 「協創活動支援事業」の指定を県教委から受け、地域連携を進め、関わる生徒数を増加させた。</p> <p>(4) 総勤務時間の縮減に向け、産業医と連携を図り、その助言を踏まえて、管理職からデスクネットを用いて、「声かけ」を行った。</p>	<p>(1) 連携の強化を図っているが、学年間での協力をさらに図るために、教科会の充実を行う必要がある。</p> <p>(2) 東日本大震災から5年が経過し、防災意識の低下が課題である。学校防災と防災教育の両面でのさらなる充実が必要である。</p> <p>(3) 地域連携を充実させてきていることを踏まえ、今後は、生徒をホンモノの大人と触れ合わせ、学ぶ機会を作る。</p> <p>(4) 生徒のことを第一に考え、寄り添う姿勢を持つ本校教員にとって、総勤務時間の削減が課題である。今後は、生徒の主体的行動を軌道に乗せ、同時に過重労働を解決させたい。</p>

(2) 組織の状態の評価結果

アセスメントから明らかになった状況	
強み	<ul style="list-style-type: none"> ○「学校経営の改革方針」実現に向け、特に「進路希望の実現」に向け、各学年担任団・教科・分掌等での達成意欲が非常に高い。 ○進路指導体制が高いレベルで構築されており、生徒に具体的目標を持たせるのに足るプログラムが用意されている。 ○主体的に考え、行動できるまでの人権教育を推進しており、自己とともに他人を大切にすることを育成している。 ○勉学とともに部活動にも力を入れ、運動部・文化部ともに、全国大会・中部大会・東海大会にも出場を果たしている。
弱み	<ul style="list-style-type: none"> ○多くの生徒が利用する通学電車が公有民営になり、通学に係る保護者負担が若干増加した。 ○教職員が、多様な生徒に寄り添いつつ、難関大学入試問題対応を中心とした教材研究・質問対応・進路指導・部活動指導等に長い時間を費やし、総勤務時間の縮減につながっていない。 ○老朽化した校舎・プール等の施設設備(ハード面)を補うために、生徒・教職員のソフト面での負担が大きい。

(3) 学校関係者評価委員会の実施状況

学校関係者評価委員会の実施内容等	
＜実施回数＞	3 回
実施内容	第1回は、本校の概要について説明し、平成26年度学校評価報告書・平成27年度学校経営の改革方針等に基づき、今年度の方針について、ご意見をいただいた。 第2回は、授業をご参観いただき、特に学力向上に向けた本校の取組、とりわけ前年度まで課題とされていたアクティブラーニング・ICT活用等についてご協議いただいた。 第3回は、年間を通した活動報告の後、豊かな人間性と高い志を育て、学習意欲を向上させるために、次年度の外部との連携のより良い在り方・総合的な学習の時間の一部改革についてご教示いただいた。

(4) 学校関係者による評価結果

学校関係者評価から明らかになった改善課題	
関係者評価	○生徒の視野を広げさせることが必要であり、そのために外に目を向けさせ、ホンモノの大人と関わらせ、活躍のステージの機会を作るという取組は高く評価できる。さらに推進するために連携先と学校のサポートが重要である反面、失敗から学ぶ機会があってもよい。 ○普段からアクティブラーニングを継続し、他の生徒から刺激を受け、多くの「わかる・できる」体験が、結果的に自信を育む。 ○基礎的知識を習得させるため従来型の授業を大切にしながらも、アクティブラーニング・ICT活用は、大学や社会でも必要な手法でもあるため、授業をデザインするときに、さらに推進し、次代を担うリーダーの育成を図ってほしい。

(5) 組織力向上のための取組(改善策)

次年度に向けた取組
○授業において、到達目標を示し考えさせ振り返りをさせる形への転換を推進し、どの生徒にとっても学力の伸長に繋げ、進路希望の実現を図る。 ○総合的な学習の時間について一部を改革し、人権教育・進路指導等に加え、コミュニケーション力・論理的思考力・表現力・問題解決力等を総合的につけさせる。また「いのち」の教育・主権者教育の一層の推進を図る。 ○生徒及び教職員の負担増を避けながら、生徒の経験値を上げ、興味関心を明確にさせ、学習意欲向上に繋げるためにも、外部組織との連携をさらに深め、「行動する高校生」「ホンモノの大人と関わる」体験プログラムを希望する生徒向けに構える。 ○主体的に考え行動する生徒指導を継続し、特別な支援を要する生徒には合理的な配慮を行い個に応じた指導を継続するとともに、全ての生徒にとって学びやすい環境を整える。 ○生徒募集にあたっては、通学環境の変化を考慮し、中学生及びその保護者のニーズに合わせたより良い在り方にしていく。 ○「高大接続改革」（高校教育の改革・大学入学希望者学力評価テスト（仮））への具体的対策を構築する。 ○教職員の過重労働解消・総勤務時間の縮減に向け、組織的に取り組む。